

事例5-2

取組名	安否確認システム「オクレンジャー」の活用		
町会名	なみやなぎ 並柳町会（庄内地区）	町会 データ	・人口／3,687人 ・世帯数／1,731世帯 ・高齢化率／20.9％ ・町会加入数／1,270世帯 ・隣組数／32組
取組概要	○ 災害時の安否確認や防災・防犯情報等の発信を目的として、安否確認システム「オクレンジャー」を導入		

背景・課題

- ・ 近年、急速に宅地化が進んだことで、町会加入世帯数は千を超え、町会内の情報共有が難しくなっていた。
- ・ 町会人口が増加する中、新型コロナウイルス感染症の拡大を機に、対面に代わる情報伝達手段の必要性を感じていた。
- ・ また、数年前から、災害時の安否確認が一斉にできる方法を模索していた。

経過・取組内容

- ・ R2に、上の課題を解決する手段として、当時の役員の勤務先で利用されていた安否確認システム「オクレンジャー」の導入を検討した。
- ・ 災害時の安否確認だけでなく、日常の事務連絡や防災・防犯情報の発信にも活用できることから、検討の結果、導入を決定。
- ・ なお、当町会では、町会員名簿に代わるものとして、居住者が分かる紙マップを作成し、各組長に配布している。
- ・ これらの紙マップとオクレンジャーとを併せて運用することで、有事の際、支援が必要な人を速やかに特定できるようにした。

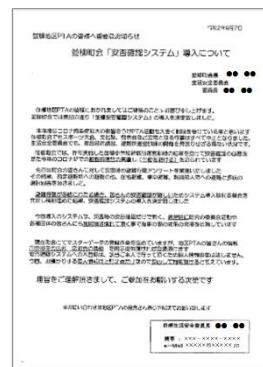
成果・今後の展望等

- ・ R7年度現在のオクレンジャー登録世帯数は、700を超えているが、1,000世帯を目標としている。
- ・ 独居高齢者や携帯電話を持たない住民については、他地域に住む家族等が登録することで情報を共有しているが、遠方の家族から「父の体

調が悪いようなので確認に行って欲しい」とオクレンジャーを介して連絡が入り、対応につながった例もあった。

- ・ オクレンジャーの活用により。町会が住民の安心・安全確保に寄与することで、住民の町会の必要性に対する意識変化にもつながっている。
- ・ 現状、オクレンジャーの利用に年間24万円程かかっているため、今後市が別のアプリ等を推奨する場合、そちらへ移行することも考えられる。

システム導入の案内



オクレンジャーの送信履歴画面



【ポイント】

- ▼ 安否確認システムを普及・活用により、地域の安心・安全の確保